

令和 5 年度 第 26 回 大阪市精神保健福祉審議会 自殺防止対策部会

1. 日 時：令和 5 年 7 月 26 日（水）午後 3 時 00 分～4 時 30 分
2. 場 所：大阪市こころの健康センター大会議室
3. 出席委員：大藤委員、北條委員、佐田委員、澤委員、堤委員、林委員、藤井委員、  
前久保委員（五十音順）

4. 会議内容

報告 1 大阪市の自殺の状況について

- ・同居者がいる方といない方のグループについては、実数としては確かに同居者がいる方の自殺者数が多いが、恐らく大阪市は独居者が多いため、独居の方が比率的には自殺率が高くなるのではないかと思うため、その比率について確認をしたい。  
また、若年者が多い大都市における自殺者数についても確認をしたい。

議題 1 「大阪市自殺対策基本指針（第 2 次）」の中間見直し及びアンケート調査について

- ・問 4 のところで悩みやストレスを抱えておられる方の選択肢の一つとして、若年層の方の自殺者数が増えているという状況を踏まえ、学校でのことについて記載をすべきである。
- ・問 15 について、「どのようにしてその時に行動しましたか」や、「どのようにしましたか」という表現に改めるべきである。
- ・問 21 の 11 番の選択肢は、自殺電話相談ではなく自殺防止電話相談である。
- ・問 3 について、「現在のあなたに悩みやストレスがありますか」という表現に改めるべきである。
- ・問 4 の選択肢 10 番について、「将来と老後」は分けて聞いたほうが、統計を取るのであれば重要ではないかと考える。
- ・問 13 の「これまでの人生の中で本気で死にたいと考えたことがありますか」という質問について、死にたいと思っている人にとっては、答えにくい質問であり、自殺しようと思う人の原因と、死にたいと思う人の原因、消えたいと思う人の原因はそれぞれ影響因子が違う。また、自殺したいと思ったことがあるかを聞きたいのであれば、以前の文言を変えず、直接聞くべきであると考ええる。
- ・問 15 については、本気で考えたが、現在乗り越えていると回答する方は少ないと想定されるため、「「本気で考えたことがある」を選択された方のみお答えください」としてしまうと、答えること自体が難しくなるのではないかと考える。また、選択肢として学校や宗教家による相談についての項目を追加するべきである。
- ・問 16 は設問の順番を改めるべきである。
- ・問 13 の聞き方を変更したとしても、前回の結果と大きな違いが出ないのであれば問題はないと思うが、今回のアンケートについては、比較をすることが大きな目的であ

と思うため、表現を変えてしまうと比較できないようになってしまうのではないかという懸念がある。

- 問 21 の選択肢として、学校での相談窓口や、学校での告知を充実させるというようなものを追加するのはいかがでしょうか。
- 問 4 の選択肢である 16 番と 17 番の間に一つ、現代社会の中での基本的な価値基準が変わっていることも考慮し、ジェンダーの問題に関する項目を入れてもよいのではないかと考える。
- 大阪市は一人暮らしが多いことについて、若年女性が急に一人暮らしを始めたのか、それとも色々な経済的な事情で全く違うところにいた人が大阪市に流入してきたのか、ということがあるのなら、そこの部分を確認しておくべきである。